

1 改修の目的と方針

門真市の文化芸術活動の拠点であるルミエールホールは竣工から24年が経過しました。その機能は、文化芸術鑑賞のためだけでなく、市民文化芸術活動の発表の場、文化団体の交流の場としてなど多岐に渡っています。そして、本市は指定管理者と連携し、ルミエールホールを拠点として文化芸術振興のための様々な活動を支援し、多くの市民が文化芸術に触れられる機会と自主的に活動できる機会を設けています。それらの活動を今後も継続的に支援し育成していくために、ルミエールホールは改修工事を実施します。

大ホールと小ホール、そしてエントランスホールの天井は、地震の揺れによる落下を防止するため補強を行います。開館以来使い続けてきた空調機器は取替えを行います。老朽化した舞台設備も改修します。そして、全ての市民が、気軽に文化芸術に触れられる機会を増やすためにバリアフリー改修を行います。バリアを取り除くだけでなく、大ホールでは車椅子用のスペースをより鑑賞しやすい位置に移動させます。誰もが使いやすい施設にするために、ユニバーサルデザインの観点からサイン等の案内表示をより見やすく改修します。

門真市文化芸術振興条例の基本理念にある「市民が等しく、身近に文化芸術に触れ、これに参加し、又はこれを創造することができるような環境の整備」のために、ルミエールホールは安全・安心で誰もが使いやすい施設に生まれ変わります。

2 改修概要

■舞台設備更新工事

- ・老朽化した舞台機構設備、舞台照明設備、舞台音響設備の更新及び改修を行います。

■天井耐震改修工事

- ・大ホール客席天井
特定天井に該当するため、建築基準法を満たす耐震性を確保した準構造化天井へ改修します。
- ・エントランスホール天井
特定天井に該当するため、建築基準法を満たす耐震性を確保した準構造化天井へ改修します。
- ・小ホール客席天井
特定天井には該当しませんが、不特定多数の利用があるホールであり特定天井と同等の耐震性が求められるため、耐震性を確保した準構造化天井へ改修します。

■建築の経年劣化等改修工事

- ・エレベーター
客用エレベーターを現行法に適合したエレベーターへ更新します。
- ・駐輪場建物の塗装仕上の塗替えを行います。

■設備の経年劣化等改修工事

- ・老朽化した空調設備等の設備機器を更新します。
- ・照明器具のLED化を行います。

■バリアフリー改修工事

- ・スロープ改修
車椅子移動動線を確保するため、1階楽屋廊下の階段と1階守衛室側出入口の階段をスロープに改修します。
- ・エレベーター新設
1階楽屋と地下1階楽屋を連絡する車椅子対応のエレベーターを新設し、大ホール舞台までの車椅子移動動線を確保します。
- ・トイレ改修
トイレの和式便器を洋式便器へ改修します。
- ・手摺・視覚障がい者誘導用ブロック設置
バリアフリー法に適用するように手摺や視覚障がい者誘導用ブロックの設置を行います。

■利便性・機能性・快適性の改善工事

- ・客席内装
大ホールと小ホールのホワイエの老朽化しているカーペットを更新します。
- ・客席椅子
天井耐震改修工事に伴い撤去する必要がある大ホールの客席椅子を更新します。また、老朽化した小ホールの客席椅子を改修します。
- ・舞台床
大ホールと小ホールの舞台床の改修及び更新を行います。
- ・サイン
ユニバーサルデザインの観点から、誰にでも分かりやすいサインに改修します。



エントランスホール改修イメージ

3 ホール天井の耐震改修

大ホール、小ホール、エントランスホール共に「建築物における天井脱落対策に係る技術基準」に合致した耐震化を行います。

- 特定天井とは**
 特定天井とは、脱落によって重大な危害を生ずるおそれがある天井のことです。6m超の高さにある、天井面積200㎡超、質量2kg/㎡超の吊天井で、人が日常利用する場所に設置されているものと定められています。
- 大ホール特定天井の耐震化**
 ホールの観客の安全性を確保するために、天井を耐震化し吊天井から直天井に改修します。耐震改修後も現状の音響効果を確保するため、天井は現状と同じ仕上、形状に復旧します。
- 小ホール天井の耐震化**
 小ホールは、特定天井と判断される天井面積を下回るため特定天井には該当しませんが、その他の状況は大ホールと全く同じであるため、特定天井と同等の耐震化を行います。
- エントランスホール特定天井の耐震化**
 通行の多い空間にあって脱落による危険性が大変高い特定天井であることから、天井を耐震化し吊天井から直天井に改修します。



総合案内サイン改修イメージ

4 サイン改修

- 誰もが見やすく、わかりやすいサイン**
 サイズを大きくし、背景との明度差を大きくした文字を用い、より認識しやすいサインを設置します。
- 施設カラーと連携した配色計画**
 長年親しまれているロゴマークの青色を継承したネイビーブルーを施設のテーマカラーとし、サインのベースカラーも同色に統一することで、空間デザインの調和を図ります。
- サイン機能の強化**
 現況のサインに不足している誘導や案内機能の問題点を解決するため、よりサインを充実させます。
- 英文併記の表示**
 日本語が理解できない来場者に配慮して、サインの表示に英語を併記します。
- 使用書体（フォント）について**
 機能性を優先し、視認性が高く判読しやすいユニバーサルデザインフォントを採用します。
- 改修コストの削減**
 現況のサインの位置にサインを新設し、壁面の改修コストを極力削減する計画とします。
- 差替可能なサインシステム**
 部屋の入替えや表示面の変更等、マグネット等で容易に差し替えられるサインシステムとします。

